

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム やまばと

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900173		
法人名	一関病院事業		
事業所名	グループホーム やまばと		
所在地	〒029-3405 岩手県一関市藤沢町藤沢字町裏56番地		
自己評価作成日	令和3年9月7日	評価結果市町村受理日	令和3年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同系事業態に藤沢病院があり、かかりつけ医でもあるため多様な相談、治療を受けることが出来る。また、訪問看護が週2回来所し利用者の健康管理を行っており、随時相談も出来る。施設での看取り対応も行っている(現在1名あり)。要介護度が重度になった場合でも入浴や福祉用具等併設している特別養護老人ホームからの協力をもらう事が出来る。また、現在は新型コロナウイルス感染予防の為交流は出来ないが、本来ならばデイサービス、特別養護老人ホームとの交流も盛んに行っており、お互いの行事等にも参加し交流を深めている。やまばとの利用者がボランティアとしてデイサービスからの仕事をもらい、利用者の活躍出来る場を作っており、それが生き甲斐にも繋がっている。緊急時や災害が発生したときは、近隣の協力や母体である特別養護老人ホーム、デイサービスの協力をもらう事が出来る。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、一関市藤沢町の中心地域に立地し、一関市藤沢病院や特別養護老人ホームを母体とする一関病院事業の一つとして運営されているグループホームである。母体施設との確固たる医療連携の基に、訪問診療そして訪問看護の支援を受けて、看取りへも対応している。職員は、事業所理念そして事業所行動目標の共通理解を図り、ホーム内外の研修に積極的に参加し、知識とスキルアップを図り、利用者支援サービスの向上に努めている。利用者は、職員の温かい見守りや寄り添い、母体施設等の入所者との交流を重ねながら、明るく楽しく日々を過ごしている。今は、コロナ禍で思うような外出等は出来ない状況にあるものの、職員と利用者は、コロナ収束後を見据えて、したいことや行きたい場所など、さまざまな活動を一緒になって思案している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年10月7日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホーム やまばと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの役割について、事業所理念を掲げ、年度初め、中間、年度終わりと職員全員で共通理解を図っている。また、常に意識をして行動出来るように見える所に掲示し実践に繋げている。	開設当初に定めた理念を玄関等に掲示し、職員それぞれが目を通して意識を高めるとともに、理念を基に、毎年度、介護目標を設定し、グループホーム会議で目標に対する取り組み状況を確認しあいながら、職員の理念への目線や方向性を共有しあい、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は地域での諸行事も中止になり行事等への参加は出来ていないが、地域の方々が野菜等もって来所されたりとそのような所から交流をしている。また、買い物等地元の店を利用するようにしており、些細な事からでも繋がりを大切にしている。	コロナ禍で、地域との交流は殆ど出来なくなったものの、外気浴・日光浴や病院受診、散歩や買い物、ゴミ捨てなどの際の地域との交流を大切にしている。地域の方々が野菜を持ってきてくれることが多く、事業所でとれた野菜を届けたりすることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議には委員として近隣の方々の参加がありまたは行事等で交流を深めて行く中で、認知症という症状や当施設での実践している対応方法を、例を通して在宅介護に役立つ内容をお伝えしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には市の関係者や自治会、近隣の方、民生委員の方が委員になっている。会議が開けない状態である為、当事業所の取り組みや状況報告を行い、その報告を基に意見等を頂くことにしている。また、委員の方にお会いした時にお話を伺い少しでもサービスの向上に繋がれるように行っている。	コロナ禍であるが、書面会議を含めて隔月定例開催している。事業所から丁寧に詳細な近況報告を行いながら、意見要望等に繋がりたいとしている。今後は、子どもたちとの交流継続に向け、児童福祉関係等の委員も考えたいとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の保険福祉課の職員が開催している支援会議が2か月に1回開催されており、そこで当事業所のケアサービスの取り組みを伝える事が出来ており情報交換も行っている。	運営推進会議のほか市の福祉医療支援会議の場でも、意見交換や情報交換をし、助言や指導を得ている。介護保険関係書類等の提出の際には、随時、市役所に出向き、直接、職員に渡し連絡も取っている。生活保護担当職員の来訪もある。	

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム やまばと

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体である光栄荘の身体拘束適正化検討委員会に参加し身体拘束の取り組みを行っている。委員会からの情報等職員に回覧、掲示し情報共有を行っている。玄関の施錠については夜間のみ行っており日中は解放している。	「身体拘束適正化委員会」は母体施設の特養と一体で運営されており、3か月に1回定例開催されている。会議では、身体拘束排除の基本を共有し、具体事例も出し合い排除の実践に繋げている。転倒防止のためのベッドセンサーは、家族に説明のうえで3人が利用している。スピーチロックに関しては、具体的な言葉を事務室に例示し、意識の喚起を図っている。夜間の防犯対策以外は玄関は施錠せず、職員の見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する関係機関からの通知や情報については、職員に回覧し周知している。母体である光栄荘の虐待防止委員会に参加し委員会を中心に勉強等を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援会議等で学ぶ機会がある。そこでの情報等をグループホーム会議で勉強会として学ぶ機会を設ける。また、母体の光栄荘の虐待防止研修会に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者より入所時、退所時また改定時の都度、御家族様に説明し重要事項説明書にて同意を頂いている。また、不安や疑問点を伺い必要に応じて説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会等が出来ない状況で、ご家族には管理者や利用者毎に担当があり、その担当職員が電話で生活の情雇用を伝えながら意見、要望等を聞くようにしている。利用者には担当中心に日常生活の中で移行等を伺い、会議等で話し合いサービスに繋げている。	受診同行などで来所された方からは、居室担当だけではなく職員皆でお話を伺うようにしている。特にコロナ禍では、職員がご家族に電話で状況を伝えたり、毎月広報誌に写真とメモを添えて送付し、近況を知らせ要望等を伝えやすい環境を作っている。運営に関する意見要望等は、今のところ出されていない、としている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やまばと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回のケア会議、月1回のグループホーム会議の中で、業務の見直しやカンファレンスを行い職員の意見や提案を聴き運営に反映させている。	普段のホーム会議等を重ねる中で職員間の信頼関係を築いてきており、いつでもどこでも、相互に意見や要望を交わし合える環境が出来ている。特にも「なんでもノート」に自由に思っていることを記載しあっている。年に1度の管理者との面談も有効に機能している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	利用者の生活を優先した上で、勤務時間内に業務が終了出来る様に常に業務改善や工夫を話し合いを重ね、より良く働ける職場環境をつくる様努めている。各自向上心を持って働ける様に得意分野を生かすように役割分担を行い、そこからやりがいを持てるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一関病院事業や事業所内で開催される研修会等や事業所内で開催される勉強会に参加している。また、グループホーム会議では認知症ケアの質を高めるために勉強会、話し合いをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	藤沢地区の福祉事業所が参加する支援会議にも参加し、情報交換も出来て勉強会の場にもなっている。町内には2つのグループホームがあり、現在は交流等難しいので管理者同士の情報交換を支援会議の時に行っており繋がりを持っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族、担当ケアマネ、施設ケアマネより情報収集を行い把握に努める。また、ご本人に寄り添う体制を作り要望等を伺いながら良好な関係をつくるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前から居宅の担当ケアマネ等を通してご家族様の不安なこと、要望等を伺いながら少しでも安心してサービスを利用出来るよう努めている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やまばと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にご本人やご家族より悩み等を聞き出せるように関わり、現在何が必要かを判断し気持ちに応じた対応を行う様にしている。居宅ケアマネ、行政等と連携を図り職種間の連携を図る。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に利用者の視点に立ち、その人らしく過ごして頂けるように、一人一人を尊重し認め合い、共に生活をしていることを意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の意向を尊重しながら、ご家族様との情報共有を行い、可能な限り面会や自宅への外出、外泊をご家族様の協力を頂きながら行っているが、現在はコロナ禍により面会制限をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染の散髪店を今でも利用していたり、地元へ車中ドライブを行いその場所を忘れないように対応している。	殆どの利用者の馴染みの人は、家族という状況になっているが、馴染みの床屋さんに来てもらい関係を繋いでいる利用者もいる。職員は、これからも継続して、利用者や家族からの聞き取りや入居時の情報などを参考に、馴染みの人や場所のヒントを得ていきたいとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの情報を把握し、相性等を見ながら孤立しないように、また好きな事が出来る様な環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院した際には面会に伺い状態把握に努めている。退院の見込みがなくなり退所になった場合でも面会に伺ったりご家族への声掛けを行うことにしている。また、事業所の特養に長期入所になった場合には職員への情報提供を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、ご家族のから昔のことを聞いたり、希望や意向を伺いながら、出来る事や好きな事を出来るだけ行えるように支援している。また、自分の気持ちを話したりできない利用者に関しては、普段の会話や行動、表情等から意向を汲み取るよう努めている。	お話の出来る利用者からは、直接に声がけし聴き取るほか、お話が苦手又は出来ない利用者からは、普段の言動や態度など反応を見ながら、思いを察するように努めている。野菜の収穫や床のモップ拭き、食後の後片付け、洗濯物の処理等、利用者の希望に沿った役割を担えるよう支援している。暮らし方は、本人本位とし、出来ることをしながら、日々楽しくのんびりを基本として対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の契約の時や面会時にご家族より生活歴やこれまでの暮らし方等聞き取りをしている。また、入所前の担当ケアマネより情報を収集して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設の基本的な日課に添いつつ、一人ひとりの生活スタイルに合わせ、その日の心身状態を把握した上で自立支援等に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者ごとの担当職員が月1回のモニタリングを行っている。週1回、月1回の会議で利用者全員の確認事項を話し合っている。ご家族にはモニタリング実施時に電話にて意向を伺い本人とご家族の意向をすり合わせを行っている。	入居時のケアプランは暫定で作成し、状態や容態を観察しながら見直したりそのまま継続したプランとしている。モニタリングは、居室担当職員が毎月行い、ケアマネージャーが新たなプランを作成している。ケア会議では、原則職員皆で行い意見や知恵を出し合っており、全ての職員が現状と目標を共有しながらプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践を時間ごとに記録をしている。職員間で情報を共有しながらグループホーム会議やカンファレンス等で評価をし実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	週案計画に立案出来ない場合でも、利用者のその時々生まれたニーズや思いを大切にできるよう支援している。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム やまばと

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安全に生活ができる様に、暮らしに必要な地域資源を把握出来るように情報収集に努め支援に繋がれるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からのかかりつけ医が協力病院であり、本人、ご家族のご希望で協力医を受診している。看取り対応については協力医との連携を図り対応している。通院の付き添いは職員が対応しており、受診時の報告をその都度電話でご家族に連絡している。場合によってはご家族の対応する時もあるし、同席して頂くこともある。	かかりつけ医は、本人、家族の了解のもとに、全員が協力医療機関(藤沢病院)としている。受診同行は、職員が行うことを基本にしており、協力医療機関による訪問診療や訪問看護師の訪問(週2回)と職員とで健康管理を行っている。かかりつけ医師との円滑な連携が確保されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	心身の変化は日誌に記録しており、訪問看護師へ報告や相談をして、早期発見、早期対応に勤めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、病院看護師へ施設での生活状況等を報告し、本人、ご家族が安心して治療を受けられるようにしている。また、入院中は面会し様子を伺い、退院許可が出た場合は早期に対応しご家族の協力も頂きながら病院との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時、重度化した場合や終末期の在り方について説明を行い、ご家族の意向を確認している。事業所で出来ること出来ないことを説明し、話し合いを行いながら、意向によっては特養の長期申請を勧めている。本人の状態やご家族の心情の変化を察しながら、情報共有し本人にとってより良い終末期を迎えられるようチームで取り組んでいる。	入居契約の際「看取りに関する指針」に沿って、本人家族等に説明をし了承を得ている。これまで数人の看取りを経験しているが、現在、当面对応が必要な方は居ないものの、職員は協力医療機関の協力を得て、更なる看取り対応スキルの向上に向けて研修を重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体の光栄荘の医務研修会の資料を抜粋し、急変時の対応や応急手当等をグループホーム会議で確認する。対応についてのマニュアルの作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、災害時訓練は実施している。運営推進会議等で災害時の対応について話を行い地域の協力も依頼している。地域への説明会も予定しており協力体制を築いていく。	消防と地域住民の方の協力を得ながら、年2回の避難訓練(火災)を定例実施しており、職員はAED講習や消火訓練等も習得済みである。現在、母体施設等との今後の一体的避難、訓練体制と地域の協力体制の在り方について検討、協議を進めており、地域への説明会も予定している。	利用者のより安全安心な生活の構築・確保に向け、避難や地域の協力(協力者依頼含む)の在り方の検討を進められ、体制が整備されることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	グループホーム会議等で基礎的知識や尊厳の保持等の勉強や情報収集している。また、広報等への写真や名前の掲載についてはご家族に同意を得て行っている。	本人本位を基本に、利用者を尊重したケアの実践に努めている。出来ることや好きなことをしてもらったり、嫌なことや苦手なことは無理強いをしないことを徹底している。声がけは、「さん付け」で行い、居室などプライバシースペースには必ず了解を得から入っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、行動や表情で利用者のその時の希望や思いを理解しそれを職員間で共有出来ており、自己決定出来るよう働きかけている。利用者主体のケアを実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の1日の基本的な流れはあるが、利用者個々の意向を伺ったり、状態を見ながら食事時間や内容、入浴、活動等その日の生活について臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類等の準備はご家族や担当が本人の希望等を伺いながら用意している。また起床時には当日着る衣類等利用者と話をしたり、行事等参加時にも利用者の意思をなるべく尊重しながらその人らしい服装を選んだりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何を食べたいか伺いながら、旬の食材を取り入れながら1週間の献立を立てて提供している。畑で収穫した野菜の下ごしらえ、盛り付けや配膳、テーブル拭き、後片付け等出来ることを役割分担をしながら、職員と一緒にしている。	一食は母体の特養から取り寄せ、他の二食は利用者のリクエストを聞きながら職員が作っている。食材は地元のスーパーから購入するほか、事業所の畑で収穫した野菜や近隣からのお裾分け野菜を活用し、月ごとに特養の管理栄養士が献立のチェック指導を行なっている。	

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム やまばと

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量はチェックし不足の時は利用者に合わせた対応で補うようにしている。栄養バランス等は母体の光荣荘の栄養士に相談しアドバイスを頂いて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの口腔状態を確認し声かけ等行いながら口腔ケアを実施している。また毎月1回、母体の光荣荘の口腔ケア委員会に参加し歯科衛生士のアドバイスを頂きながら対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、昼夜問わず声かけ誘導等を行い失禁を減らしている。	介護用品装着の有無に関わらず、職員の適時適切な声かけ誘導により日中は利用者全員がトイレを使用している。夜もセンサーマットやポータブルトイレを利用する方を含めて見守り声かけを行い、殆ど失敗は無く自尊心の維持につながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールは食事内容や水分量等なるべく自然排便を促すように努めている。難しいときは訪問看護師に相談しアドバイスを頂くこともある。運動については、毎日ラジオ体操や食前体操で身体を動かすようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本として週2回午前中で入浴を行っている。季節ごとに菖蒲湯やゆず湯等も行い利用者楽しんで頂いている。また、足に疾患のある方や、入浴がない時は足浴を実施している。	週2回の入浴を基本にしている。季節には、しょうぶ湯などを取り入れ、毎日の足浴にも配慮している。足浴は、フットケアとして好評であり、利用者や職員の会話を楽しむ良い機会ともなっている。嫌がる方には無理強いせず、次回や清拭等で清潔を確保している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後は一度臥床して頂いたり、休みたいときは活動時間でも休んで頂いたり個々のサイクルで過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の詳細を把握出来るように薬の袋に説明書を入れている。内服薬の変更があった場合は、職員全員が把握出来る場所に掲示し誤薬防止に努めている。また、内服薬について疑問が生じた場合等はお世話になっている薬局に相談して対応している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やまばと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の生活歴を知り、その方の好きな事ややりがいのある仕事、活動を把握し、喜びや気分転換になるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は遠出は出来ないが、希望があれば可能な限り外出(車中ドライブ)が出来るよう支援している。また、外に出たいとの希望があれば、いつでも散策等出来る様に体制を取っている。	コロナ禍で思うように外出が出来ないため、周辺の散歩や玄関先での外気浴、日光浴などで気分転換しストレスの解消を図る工夫をしている。出来る限り、短時間の外出やミニドライブなども企画して外出の機会を作っている。コロナ禍の収束後を想定し、どんな外出支援をするか今から思案している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金の管理は職員が行っており、本人と確認しながら計画的に使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者より希望があればご家族等電話でやり取り出来る様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内には花を飾ったり装飾を行い季節を感じてもらえるよう努めている。共同の空間は常に清掃、整理整頓を心掛け居心地よく生活出来るよう配慮している。	共用ホールは、食堂を兼ね天井が高く程よい採光で温かい雰囲気がある。季節に合わせて、利用者の作品も飾られている。利用者それぞれに、落ち着くことができるように、ソファ等配置が工夫されており、利用者は自分の好きな場所でのんびりと寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士で会話を楽しんだり活動が出来るように場所をセッティングして楽しく時間を過ごせるよう支援している。一人になりたい時は、居室や居心地の良い場所を用意出来るようにしている。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム やまばと

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ご せるような工夫をしている	入所前や入所時に本人やご家族に居室を見て 頂き、話をしながら居心地よい居室になるように 努めている。また、好きな花やご家族の写真を 飾ったり、お気に入りの椅子を置いたり工夫し ている。	居室には介護用ベッドや洗面所台、タンス、ク ローゼットが備えつけられており、エアコンで快適 さが確保されている。利用者は思い思いにテレビ や家族写真、自分の作品、手作りの仏壇やテー ブルなどを好みの場所に配置・掲示し、居心地の よい空間としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境つ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	居室内は自分でタンス等開けたり、ポータブルを 使用出来るように手すりを設置し安全に生活が 送れるように対応している。		